

1955(昭和30)年～

1. 経歴・狭山市との関わり

東京都で生まれる。女子美術大学附属中学校高等学校で学び、共立女子短期大学卒業。結婚後、狭山市に移住し1979(昭和44)年から2021(令和3)年まで42年間在住する。現在は青梅市に住む。

高校生の頃から童話や小説を書きたいという夢を持つ。育児の合間に童話の創作を勉強し、童話を出版する。その後、新狭山ハイツの「あおやぎ文庫」に出会い、紙芝居の面白さを知る。紙芝居講座等に通り脚本を書くことから始め、絵も描くようになる。狭山市に関する紙芝居を9作刊行している。2023(令和5)年、川越市で開催された「第18回 全国紙芝居まつり」の実行委員長として活躍する。



2. 主な業績

① 童話作品 子育ての中、創作意欲に駆られ、日本童話会(後藤樽根主宰)発行の『童話』に投稿する。1989(平成元年)年、全国児童文学祭に『アカネの忘れ石』が入選する。その後、「福島正実記念SF童話賞」で『ママがエリコでエリコがママで』が受賞し本格的に作家デビューする。1992(平成10)年、『勝手なケイ』(岩崎書店)を刊行するなど多くの作品を制作。

② 紙芝居作品 右手和子さん(紙芝居実演・研究家)の講演を聞き、紙芝居の面白さに出会う。「共感し合ってメッセージを伝えられる」と、紙芝居を演じる楽しさに魅了される。童心社主催の紙芝居作家塾で脚本の勉強から始め、子ども向け紙芝居の脚本を書き5作品が童心社より出版される。その後、脚本だけではなく絵も描くようになり作品を発表していく。大人向けの『おっぱい山』や高齢者向けの作品にも幅を広げ、NPO団体や社会福祉協議会、行政からの依頼を受ける。そして、『もも子さんとオレオレ詐欺』は、警視庁生活安全部長より感謝状を受ける。また、地域の昔話や年中行事をテーマに作品化している。

③ 狭山市に関連した作品 『ユリお婆さんと成年後見制度』『二十三夜さま』『射留魔の里』『たなばた食堂』『広瀬斜子織ものがたり』『義高と大姫のやくそく』『しゅっぽっぽのおもちつき』『とおかんや』『四十五年分の涙』、以上紙芝居、全9作品がある。



3. 特筆

自称、社会派作家である。今後も高齢者や障害者、子どもから大人まで、あらゆる世代に楽しんでもらえる紙芝居の創作と実演を目指している。「紙芝居を通して、子ども達にふるさとを大切に作る心を育ててほしい。“学校に紙芝居を”という活動が始まっているので、広げていきたい」という。

〈インタビュー〉中村ルミ子氏

〈参考文献・資料〉『語り継ぎたい狭山の魅力3』(発行：NPO法人さやま協働ネット)

「広報さやま・躍」2013年7月号